

Title	権威主義体制下における観光政策
Sub Title	Tourism policy under authoritarian regimes
Author	磯崎, 敦仁(Isozaki, Atsuhito)
Publisher	慶應義塾大学
Publication year	2022
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2021.)
JaLC DOI	
Abstract	<p>本研究は、権威主義体制下における観光政策の特徴を明らかにすることを目的とするものである。研究代表者は、これまで北朝鮮のインバウンド政策について研究を進めて単著『北朝鮮と観光』（毎日新聞出版、2019年）を出版したが、本研究では研究対象を広げて権威主義体制下における観光政策について検証している。</p> <p>北朝鮮のみならず、ソ連やアルバニアなど冷戦期の社会主義国をはじめとして、いくつかの権威主義体制下では外国人観光客を受け入れながらも自由旅行を許容していなかった。その事実をガイドブックや旅行記の記述などから明らかにして、そこに何らかの共通点を見出せるかなど横断的な検証を開始するとともに、コンテンツツールイズムや聖地巡礼などの概念適用可能性も探っている。</p> <p>複数年度にわたって研究を進めることにより、「観光学」に新たな視座を提供するとともに権威主義体制研究の一端ともなりうるものとする。</p> <p>初年度となる本年度は、第一に、各国のインバウンド政策についての先行研究を精査した。特に冷戦期におけるソ連や中国のインバウンド政策については和文での論考もあるため、そこから着手した。</p> <p>第二に、各国のインバウンド政策の中でも日本人観光客をいかに受け入れてきたかに着目して、日本交通公社が1952年から版を重ねてきた『外国旅行案内』をはじめとしたガイドブックの記述の変遷を整理しはじめた。</p> <p>研究成果の一部は、研究書の一章として出版することができた。さらに、関係書籍の書評を執筆したほか、研究会合などで計2回口頭発表を行なった。</p> <p>The purpose of this study is to clarify the characteristics of tourism policy under authoritarian regimes. By advancing research over multiple years, I have provided a new perspective on "tourism studies."</p> <p>This year, I scrutinized previous research on inbound policies in authoritarian regimes. In particular, I researched on the Soviet Union and China's inbound policies during the Cold War era. I made two academic presentations and published an academic paper on this subject.</p>
Notes	
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=202100003-20210066

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

研究代表者	所属	法学部	職名	教授	補助額	300 (A) 千円
	氏名	磯崎 敦仁	氏名 (英語)	ISOZAKI Atsuhito		
研究課題 (日本語)						
権威主義体制下における観光政策						
研究課題 (英訳)						
Tourism Policy under Authoritarian Regimes						
1. 研究成果実績の概要						
<p>本研究は、権威主義体制下における観光政策の特徴を明らかにすることを目的とするものである。研究代表者は、これまで北朝鮮のインバウンド政策について研究を進めて単著『北朝鮮と観光』（毎日新聞出版、2019年）を出版したが、本研究では研究対象を広げて権威主義体制下における観光政策について検証している。</p> <p>北朝鮮のみならず、ソ連やアルバニアなど冷戦期の社会主義国をはじめとして、いくつかの権威主義体制下では外国人観光客を受け入れながらも自由旅行を許容していなかった。その事実をガイドブックや旅行記の記述などから明らかにして、そこに何らかの共通点を見出せるかなど横断的な検証を開始するとともに、コンテンツツーリズムや聖地巡礼などの概念適用可能性も探っている。</p> <p>複数年度にわたって研究を進めることにより、「観光学」に新たな視座を提供するとともに権威主義体制研究の一端ともなりうるものとする。</p> <p>初年度となる本年度は、第一に、各国のインバウンド政策についての先行研究を精査した。特に冷戦期におけるソ連や中国のインバウンド政策については和文での論考もあるため、そこから着手した。</p> <p>第二に、各国のインバウンド政策の中でも日本人観光客をいかに受け入れてきたかに着目して、日本交通公社が1952年から版を重ねてきた『外国旅行案内』をはじめとしたガイドブックの記述の変遷を整理しはじめた。</p> <p>研究成果の一部は、研究書の一章として出版することができた。さらに、関係書籍の書評を執筆したほか、研究会合などで計2回口頭発表を行なった。</p>						
2. 研究成果実績の概要 (英訳)						
<p>The purpose of this study is to clarify the characteristics of tourism policy under authoritarian regimes. By advancing research over multiple years, I have provided a new perspective on "tourism studies."</p> <p>This year, I scrutinized previous research on inbound policies in authoritarian regimes. In particular, I researched on the Soviet Union and China's inbound policies during the Cold War era. I made two academic presentations and published an academic paper on this subject.</p>						
3. 本研究課題に関する発表						
発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)			
磯崎敦仁	金正恩政権の観光政策: コロナ禍における観光地区開発	『金正恩時代の北朝鮮経済』(文真堂)	2021年5月			
磯崎敦仁	書評: 宮塚利雄『北朝鮮観光』	『チュッペ』第17号(宮塚コリア研究所)	2021年8月			
磯崎敦仁	北朝鮮観光: 他の権威主義体制からの影響	宮塚コリア研究所講演会	2021年11月			